

編集後記

『大学院論文集』も今回で第3号になる。

ご理解いただいていない院生、先生方のためにどのような経過で論文集を編集しているかをお話しておきたい。まず、論文の募集に関する編集委員は教務委員会のメンバーが兼務であり、大学院雑誌の執筆要項を基にして募集の詳細を決めている。これは7月に三鷹、八王子校舎の掲示板を使って掲示し、同時に大学院のホームページにも掲載している。この時は論文の題の提出し、10月の指定日に論文を集めている。

この時に先生方の推薦文をつけて提出いただき、論文に研究上関連のある先生方の審査を受けている。この審査期間は約1ヶ月で審査報告書を提出していただいている。そして、検討した論文を再度、執筆者に返却し、11月末に最終的な原稿を提出することになっている。そして、初稿という運びになる。校正は初稿のみの執筆者責任校正にして、3月末の雑誌出版となる。

今回もこのような要領で論文を集め、先生方のご協力をあおいだ。第3号には9名の応募者がおり、担当の先生方のご指示により、6名の論文を掲載することになった。何よりもいろいろ御指示をいただいた先生にはこの紙面を借りて御礼申し上げたい。

以上が今回の『大学院論文集』編集経過である。

大学院である以上、論文集は大学院の知的レベルを示すものであり、更なる発展を期待している。

杏林大学大学院国際協力研究科
博士（商学）
教務委員長 武内 成